

第9回 日本手術看護学会 近畿地区大会の開催にあたって

“今改めて問う周術期看護”

～テクニカルスキルとノンテクニカルスキルの融合～

日本手術看護学会 近畿地区大会 大会長 山本 純史

第9回日本手術看護学会近畿地区大会においては、和歌山にて現地開催を目標に準備を進めております。

一昨年（2020年）の第7回は、新型コロナウイルスの感染状況を最大限に考慮した上で開催中止とし、昨年（2021年）の第8回においてはWEB開催とさせていただきました。第9回においてもWEBやハイブリッド方式での開催も念頭に入れながらではありますが、感染対策を徹底し、且つ新型コロナウイルスに屈しない共存体制とし、役員一同一丸となって開催させていただき所存です。

今回、第9回のテーマは「今改めて問う周術期看護 ～テクニカルスキルとノンテクニカルスキルの融合」といたしました。わが国は、超高齢化社会に直面していると共に、手術医療においては、医療技術が進歩し、低侵襲手術やロボット支援下手術などの専門性が増すとともに複雑化しております。また、医療の高度化・専門分化により、周術期を支える多職種間でのチーム医療が非常に重要であると考えます。このような環境下において、周術期に携わる看護師にとって、テクニカルスキル（専門知識・技術）の習得だけでなく、チーム医療のキーパーソン役として多職種との連携・調整役など、安全な手術環境を構築することが求められる時代となりました。そこで、周術期に携わる看護師として、医療を取り巻く社会環境の変化や、それぞれの各施設の使命に基づき、周術期看護を実践していくためには、テクニカルスキル（専門知識・技術）の習得や業務遂行に専念するに留まらず、多職種との連携、すなわち「協働」が重要となります。協働において重要なコミュニケーション能力をはじめとしたノンテクニカルスキル（非医療技術）は、テクニカルスキル（専門知識・技術）を向上させるためにも必須であり、更には、安全で安心な質の高いチーム医療を構築し、提供するためには必要不可欠なものであると示唆しております。

今後、様々な社会環境が変化していく中、周術期看護においても常に時代と共に変遷していくことが要求されます。本地区大会においては、これらのテクニカルスキル（専門知識・技術）・ノンテクニカルスキル（非医療技術）を融合させることで、周術期に携わる看護師として、更にモチベーション高く、やりがいを感じ、そして自己の専門性を発揮することこそが、更なる周術期看護の発展へ繋がると期待し、皆さまと共に学べる機会にしたいと考えています。

最後に、本地区大会が皆さまにとって実り多き機会となることを切に願い、準備させていただきます。

皆さまのご参加、心よりお願い申し上げます。